



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1~8	1. 播種量(うす播き励行) 2. 育苗日数(健苗育成) 3. 植付本数(細植え励行) 4. 栽植密度(優良茎確保) 5. 適正な施肥(栄養凋落防止と登熟向上) 6. 田植え時期(早植え防止) 7. 中干し・溝切り(遅発分けつ抑制) 8. 除草・防除(畦畔等除草・カメムシ防除徹底)	
9	水管理(飽水管理の徹底)	・中干し後から出穂までの約1か月(コシヒカリ)の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理
10	刈取時期(適期刈取りの励行)	・籾の黄化程度に応じた刈取り

## 今月のポイント1 適期刈り取りに努めましょう。

### <コシヒカリの刈取適期>

	平坦地帯	山間地帯
予想刈取適期 (出穂期)	9月5日~8日 (7月29日)	9月7日~10日 (7月31日)

籾黄化率 80~90% 籾水分 25%

登熟積算気温 960~1,100℃ (登熟積算気温: 出穂してからの日平均気温の合計)

※成熟期が昨年より5~6日程度遅くなっています。刈り取り時には必ず黄化率を確認して適期に収穫しましょう。

- 籾黄化率85%から刈り始めましょう。
- 遅刈りは胴割粒発生の原因となります。



J Aの営農の手引きの裏表紙を参考にしてください。

## 今月のポイント2 乾燥・調製は適正に行い、乾燥ミスによる胴割粒の発生を無くそう。

⇒営農の手引き45ページも参照ください。

### <乾燥作業の注意点>

- ① 品種が変わるごとに、コンバイン、乾燥・調製施設の清掃をしっかりと行う。(異品種混入防止)
- ② 水分計(乾燥機の自動水分計も含む)は事前に調整・点検を行う。
- ③ **収穫した生籾を長時間放置せず、直ちに乾燥機に入れる。(ヤケ米防止)**
- ④ はり込み後1~2時間の送風を行い、引き続き本乾燥を行う。(胴割粒防止)
- ⑤ **急激な乾燥や高温乾燥は行わない。(胴割粒防止)**
- ⑥ 水分過多・過乾燥に注意し、水分は14.5~15.0%目標に仕上げる。

※もち米については、全てハゼるよう二段乾燥を行いましょ。

### <籾摺り・選別・計量>

- ① **皆掛け重量 紙袋(30.5kg以上) フレコン(1,092kg以上) の量目不足にならないよう注意する。**  
・近年、皆掛け重量の量目不足のものが見受けられますので、注意してください。  
・自動計量器の点検を必ず行ってください。
- ② 肌ズレ米の防止に努める。  
・籾摺り機のロールの間隔調整は適正に行ってください。  
・乾燥後一昼夜置いて穀温が常温に戻ってから籾摺りを開始します。
- ③ 整粒歩合80%以上にするため、適正網目を使用する。  
・未熟米を除くため、**ライスグレーダーの網目は粳米・糯米ではL~LLサイズ(1.85~1.90mm)を使用してください。**  
・適正な流量で選別してください。

裏面に続きます

栽培履歴簿と自己点検(GAP)シートを記帳し、最寄りの支店へ提出してください。

異品種混入を防止するため、機械・施設の清掃を徹底してください。

稲こうじ病にかかった稲は刈取前に取り除いてください。

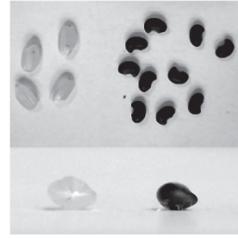
クサネムは、刈取前に抜き取ってください。

## 注意事項

### ① クサネムは刈取前に必ず取り除くこと。

- ・クサネムの種子はお米と同じくらいの大きさのため、籾摺り時に取り除くことが困難です。
- ・クサネムの種子は検査時に異種穀粒とみなされ、等級を下げる原因になります。

大きさ



厚み



玄米

クサネム  
種子

クサネム

### ② 稲こうじ病にかかった籾も刈取前に取り除くこと。

混入している場合は規格外となる。

- ③ 機械の点検整備・農作業安全に努める。
- ④ 栽培履歴簿と自己点検（GAP）シートを記帳し、最寄りの支店へ提出してください。
- ⑤ 玄米の盗難防止のため、倉庫の施錠等、対策をとってください。

## 刈取後の雑草対策

雑草名	除草剤名	10a当たり散布量	散布時期
イボクサ サヤヌカグサ クログワイ コウキヤガラ等	ラウンドアップ マックスロード	原液 1ℓ を 水25～50ℓ で希釈	雑草の生育期 { 雑草が、わらの上まで生育してから散布し てください。 }
ヒエ	石灰窒素	20kg	稲刈り後 1週間以内 ( ヒエが発芽し、その後、寒さで枯死します。 )

上記の除草剤を散布した後、1ヶ月間は耕起しないでください。  
除草前に耕起すると、ちぎれた球根や茎が土中に混ざりこみ、除草作業が困難になります。

## 元気が見える土づくり対策

JA石川かほくでは、**土づくり資材の散布受託（散布機械・オペレーター確保、散布費用無料ただし3ha以上）**または、**散布奨励金（370円/3袋（10a当り））**の還付を行う、「土づくり運動」に取り組みます。

JA石川かほくの土づくり運動の対象資材＝かほく<sup>だいち</sup>大地の恵<sup>めぐみ</sup> または <sup>うまいぞう</sup>有米蔵

### ① 秋の好天のうちに以下の資材を散布し耕起する

- ・有機物の投入：堆肥2トン/10a
- ・土づくり資材の施用：かほく<sup>だいち</sup>大地の恵<sup>めぐみ</sup> または <sup>うまいぞう</sup>有米蔵 どちらも3袋（60kg）/10a

### ② JA石川かほく管内の地力は低い状態です。

- ・土壌酸度は、目標値よりやや低めですが、問題ありません。
- ・土壌中の有機物（腐植）が少ない傾向にあります。
- ・土壌中のリン酸、ケイ酸も目標値より低い状態です。

### 平成28年度JA石川かほく管内土壌分析平均値

項目	現状	目標値	項目	現状	目標値
土壌酸度（pH）	5.5	5.5～6.5	可給態リン酸含量	11.3mg	20mg
腐植含量	2.3%	3.0%	可給態ケイ酸含量	18.7mg	30mg

## JA石川かほく米555共励会 今月のポイント

- 刈取り5日前までの間断通水により登熟向上を図り、収量向上
- 適期の刈取りにより未熟粒、胴割粒の発生を抑え、品質向上
- 急激乾燥・高温乾燥を避け、胴割粒の発生を抑え、品質向上
- 土づくりの実施により、天候に左右されにくい稲となり、食味、品質、収量ともに向上

- ・災害等（イノシシ被災含む）によって2割以上の減収が予想される場合には、農業共済（TEL：239-2555）に被害申告を行ってください。